

2022年4月1日

2022年度

新入社員入社式式辞（文書版原稿）

株式会社 アイヴィス

代表取締役社長 石和田 雄二

< 目次 >

1. はじめに

{ 新型コロナの出口が見えて今年は対面での新人研修を行う }

新入社員の皆さん、社会人としての第一歩、おめでとう。

2. 景気は再び停滞に向う

{ 回復予定の景気は、突然の国際情勢の変化で停滞しそうだ }

ウクライナ情勢で国際関係は緊張、世界景気は再び停滞に向う。

3. IT サービスは、コロナを抜けて大きく伸びる

{ IT サービスは第3の大変革期、コロナ後の日本の未来拓く }

少子高齢化の下、日本社会の自動化効率化を支える IT サービス

4. 変革渦中の IT サービスはどう変わり、どんな時代が来るのか

{ 用語的にはクラウド、データ分析、デジタルツイン、CPS }

その先は各種のスマート系システム、技術を超えた目標も大切だ

5. 当社の専門技術とサービスの概要、その将来性

{ IVIS: Intelligent Vision and Image Systems、創業時の思い }

今、防衛省経産省の大型研究を担当、NTT データと実用化作業

6. 企業としての未来拓く基盤整備5カ年計画

{ 前期は前々比20%増売上53億、23年60億25年度80億 }

先端技術と基盤技術が支える3大都市圏ITサービス1千人体制

7. 5年後のIVISを支える主役の皆さんへ

{ 仲間との連帯と学ぶ力を軸に専門性の高いPLPMに }

ITSは未知への挑戦と深化の場、熱い心で現場に学び未来を拓け

8. 社会人となる皆さんへ

{ 技術革新は変化を加速する、流されず変化を糧に成長を }

変革の時代は成長機会、主体的に変化と取組み成長の糧とする。

9. おわりに

{ 26年以降が当社の真の成長期、仕事を通じて自己実現を！ }

30年前の入社式は既に辞めた専門卒3名でした。想いを託して

将来、一緒にロボットを作ろうと、新人歓迎のスピーチをした。

今105名の新人を前にしているが、時代の先頭を走る人もいる。

可能性を信じ、目標をもって地道に努力を続けた結果、と思う。

1. はじめに

{ 新型コロナの出口が見えて今年是对面での新人研修を行う }

新卒の皆さん、社会人としての第一歩、おめでとうございます。

○ お茶の水前の外堀通り、医科歯科大構内の桜並木が満開だ。

寒さの厳しい今年の冬、今週の日曜日に一気に満開になった。

本格的な春の始まり。新しい門出の時だ。

○ 今年の新卒新人社員は 105 名、院卒 43 名、女性 11 名です。

人数的には、一位は名大と理科大の 8 名、三位が京大の 7 名、

前途有為な多くの若者を迎え、

将来の活躍を期待しつつ、責任者として身の引締まる思いだ。

○ 新人は本社に近い此処、アイヴィス分室で技術研修を行う。

会社の同期は長い人生の生涯の友、3 か月間の研修の間、

我々先輩も含め、技術だけでなく人間的な交流も深めて欲しい。

○ 新型コロナは 3 年目を迎えるが、今年は 3 年振りの対面講習。

コロナ出口も見え始めており、この機会に正常化へ踏出したい。

但し、クラスター感染防止の為、マスク着用をお願いし、

入退室時の検温チェックも行うが、協力して下さい。

2. 景気は再び停滞に向う

{ 回復予定の景気は、突然の国際情勢の変化で停滞しそうだ }

ウクライナ危機で国際関係は緊張、世界景気は再び停滞に向う。

- コロナ収束を見越し、日本経済は上昇に向かう予定だった。

3密を避けこの2年間の仕事は Online、殆どの新規商談進まず、
コロナ収束を見込し人流物流、旅行観光飲食に工場も動き出す。

- コロナ禍の2年、20年4-7月底に全般的回復基調にあった。

コロナ下の経済状態は20年4-7月のマイナス7.9%を底に回復、
21年度は3.7%、規制を緩めた欧米は米5.7%英7.5%に回復だ。

- 22年のGDP予想は世界4.4%米4.0%EU3.9%で日本は2.9%

コロナの出口が見え始めた22年には、反動増とESG、SDGSの
次世代向け投資が動き始め、安定回復基調が続き、経済成長率は
世界が4.4%、米4.0%EU3.9%日本2.9%の成長率予想だった。

- 突然降って湧いた様にウクライナ危機が起り、景気は停滞する

相互依存関係にある世界経済で、再び輸出入と人の動きが止る。

ロシアとウクライナに依存していた原油小麦、希少金属が高騰、
輸出も打撃を受け、米金利上昇に合わせ日本円が急落している。
欧州ASEAN厳しく、日米は一見小康だが悪性インフレ進行中。

3. IT サービスは、コロナを抜けて大きく伸びる

{ IT サービスは第3の大変革期、コロナ後の日本の未来拓く }

少子高齢化の下、日本社会の自動化効率化を支える IT サービス

○ 日本の IT サービスは内需中心、コロナ後の回復需要が動く

ウクライナ危機の直撃を受けた輸出型製造業も円安効果で小休止、一部の産業セクターを除いて経済は活性化へ、停滞の飲食旅行やホテルなど内需復活を支える金融系 IT サービスも動き始める。

○ IT サービスは大変革期、IOT とクラウド媒介にデータ時代へ

IT サービスは 5G 通信と先端技術の深層学習 AI が原動力で、IOT やクラウドなどの広がりを背景に大変革期を迎えている。データの時代の始まり、ユーザー主体の本格的 DX 時代に入る。

○ 人依存のオンプレ運用は限界、クラウドが一気に動き出す。

個別所有から相互活用へ、クラウドベースの基盤再構築が進む。IT 環境の整備が進み、先送り状態の DX 案件が一気に動き出す。

○ 大変革期は成長機会、他社より半歩先の成長の波に乗ること

平成の激動期に当社が成長出来たのは IT が成長期だった為だ。今回も先端技術と基盤技術が牽引する IT サービスの大成長期、人材加え他社の半歩先を走る。先行く企業に情報も仕事も集る。

4. 変革渦中の IT サービスはどう変わり、どんな時代が来るのか

{ 用語的にはクラウド、データ分析、デジタルツイン、CPS }

その先は各種のスマート系システム、技術を超えた目標も大切だ

○ 第3の IT 大変革期は 5G と先端技術が切拓くデータの時代

今は 80 年代のダウンサイジング、21 世紀初頭のインターネット

に続く日本の IT サービス業界が経験する第 3 次の大転換期だ。

各種センサーが把握するモノの状態、情報をネットに繋ぐ IOT、

ネットを通じて情報を必要な人に繋げる 5G、

第 3 世代の AI と共に通信技術の進歩が大変革の原動力。

爆発するビッグデータを蓄積するクラウドと AI など先端技術を

駆使するデータ分析、顧客中心の新 IT サービスの中核の技術だ。

○ クラウドは所有から利用の流れを固め、AI は自動化を進める。

クラウドは顧客の自社コンピュータの必要性を超え、所有よりも

利活用を支援、IT 民主化を進め、IT サービスを大手 IT ベンダー

から主体を利用者自身である顧客と各種の専門ベンダーに移す。

AI はデータ分析だけでなく自律的作業で労働環境をも変革する。

○ 次世代のシステムの形は CPS、デジタルツインが主流になる

Cyber 空間で現実の問題解決最適化、スマート社会を実現する。

5. 当社の専門技術とサービスの概要、その将来性

{ IVIS: Intelligent Vision and Image Systems、創業の技術軸 }

今、防衛省経産省の大型研究を担当、NTT データと実用化作業

○ 社名は 33 年前の会社創立時、想いを形にと一晩考えて付けた

88 年は日本経済のバブルの絶頂期、崩壊が始まる時でもあった。

情報サービスのには、

今までの成長産業が初めて迎えた構造的大変革期、

中央集中大型計算機がワークステーションネットワークに移り、

次世代 AI 開発プロジェクトの第 5 世代が暗礁に乗り上げた時、

NEC の 98 が一世を風靡、次世代への移行が始まりかけた時だ。

想いもあり、自分の専門技術分野の CAD/CAM/CG と重ね、

画像を通して外界を認識する Computer Vision、

その先のロボット、ロボカップ参加をも意識して付けた名前だ。

○ 未成熟の研究開発分野では食えず、会社成長を優先へ舵を切る

3次元モデリング、CAD/CAM/CAE/PDM の開発業務で安定化、

90 年代後半から人材を採用しつつ、

ビジネス SI サービスやネット系の開発に仕事を広げる。

その間、9 眼レンズ立体カメラやハプティクス端末も試作した。

○ そして今、時代が変わり人工知能、認知認識、画像の時代だ。

先端技術部門 80 余名、IVIS の伝統を継承、新たな地平を拓く。

今まで先端技術開発は全国的に東京本部で統括管理していたが、

これから各地域別で顧客対応 IT ソリューションサービス部隊と

連携を深めて行く必要性と地域の顧客の先端技術案件を効率よく

取込んで行く上で名古屋、大阪は支店管轄として発展を目指す。

地域の特徴は東京が研究開発、名古屋が応用、大阪は課題解決、

東京本社が NTT データ技開本と官公庁系研究所対応に大学系、

名古屋は主にトヨタ及びトヨタグループと産総研に大学

大阪は川崎重工、三菱重工、ヤンマーや気象協会などである。

上記は大半が研究請負作業だが、大型研究案件も応札している。

それが、防衛装備庁の安全保障技術開発制度の大型研究公募案件

「レジリエントな自由視点画像含む V-SLAM 高度化」であり、

経産省 NEDO の「リザーヴァーコンピューティング」案件だ。

要員的には、現在東京 50 名、名古屋 20 名、大阪 10 名だが、

今年度は、皆さんも含め全体で 50 名増員、130 名体制にする。

○ もう一つの先進部隊はクラウド技術と企業基盤を担当する部門

基盤技術の専門部隊、技術専門性で顧客クラウド化を支援する。

これからはエンドユーザーの時代に相応しく、顧客の DX 案件は先ずクラウドによるデータ統合を目指す企業経営基盤システムのクラウドリフト、更には顧客システム構築に必要な新たな技術、アジャイルやローコード開発などの専門知識経験が必要になる。先進基盤技術サービス本部を作ったのはこの要請を応じる為で、現在、NTT テレコム部隊の要員を加え本社 50 人規模の体制だ。

○ 付加価値サービスを担当するのが IT ソリューションサービス

此処がプロフィットセンターとしてお客様対応の IT サービスを主に担当、収益でも信用的にも当社の現在と将来を支えている。

東京地区は ITSS 事業統括本部の下、設計製造、社会公共、流通小売り +DX 推進の 3 本部、各部門 100 人規模の技術者がいる。

設計製造は CAD/CAM/PDM から AR/VR、IOT によるデータ分析で工場効率化推進や防災監視、更には ε ロケット自動検査などを

IHI 空領域事業本部、自動車系 IT 専門企業各社と行っている。

社会公共は金融と輸送中心だが、今後、官庁系の防災医療教育や環境エネルギーなど ESG や SDGS 業務にも広げて行く積りだ。

その他物流小売と DX 推進が東京地区、名古屋地区はトヨタを、大阪地区では NTT 関連案件や物流の ITSS を担当している。

6. 企業としての未来拓く基盤整備5カ年計画

{ 前期は前々比20%増売上53億、23年60億25年度80億 }

先端技術と基盤技術が支える3大都市圏ITサービス1千人体制

○ 企業が発展するには次世代技術と安定したサービス業務が必要

顧客の価値創出を支援するITサービスは重要だが、これだけで

企業の持続的成長は出来ず、現行ITサービスの差別化を支え、

次のITサービスを育む技術と時代環境への適応技術が必要だ。

今の時代、これは先端技術と基盤技術部門、各々80名近くいる。

○ サービスはITソリューションサービス部門が担当、400名超

分野別に設計製造から社会公共、流通小売分野が東京、トヨタが中心の名古屋支社、西日本を視野に大阪周辺担当が大阪支社だ。

データ時代の顧客DXクラウド移行などを基盤技術部門が支え、

先進技術部門はデータ分析などで支援、逆に実用化課題を学ぶ。

顧客業務達成を通じて組織も各部門の人材も成長する仕組みだ。

○ 現在は5カ年計画の前期3年計画の2年目、計画通りに推移中

3年計画は成長基盤整備、新卒採用と経験豊かな大手IT出身者

加えて質量兼ね備えた人材育成、組織体制、新技術導入を図る。

前期売上20%増達成、25年度には80億社員1000人を目指す。

7. 5年後の IVIS を支える主役の皆さんへ

{ 仲間との連帯と学ぶ力を軸に専門性の高い PLPM 目指せ }

ITS は未知への挑戦と深化の場、熱い心で現場に学び未来を拓け

○ 5年後の皆さんは IT のプロ、自覚と危機感を持って学習せよ

大学で勉強した人もしなかった人も、勉強は終りと思っている人がいるがそれは間違いだ。学校教育終了は学習の終りではない。

これからが社会人として、真の意味での学習のスタートになる。

学習は現実を理解し制御し、時を経て自らの成長を実感出来る、

これほど楽しいことは他にない。そう思って取り組んで欲しい。

○ 人は、社会的な価値生産の場である仕事を通して、成長する。

仕事の中で人と出会い、新たな知識を得、責任担い結果を出す。

仲間やお客様から信頼され、自信を得て社会人の自覚が生れる。

仕事に必要な最新知識を身につけ、困難を仲間との作業で越え、

PDCA サイクルと現地現物現実から学んで、経験を深化させる。

これが現実から学ぶ本当の学習、自ら学び習うことなのだ。

受身では仕事の達成は勿論、自分を成長させることも出来ない。

自分を成長させるのは自分以外にはないことも肝に命ずべきだ。

当社への入社はプロ修行の第一歩、生涯続く学習のスタートだ。

○ 5年後の皆さんには、プロとしての専門性と応用能力が必須

今年からプログラミングは高校の必須科目になり、3年後には、
大学入試対象、その能力を前提に大学で専門課程を学んでくる。
そうした次世代の若者たちが、社会に次から次に出てくるのだ。
クラウドやAIの知識、WebもDB設計も、業務アプリの開発も
大衆化・常識化して行く筈、今のPG・SEの仕事は彼らがする。
IT技術者としての仕事が、職業として成立つ条件は何なのか
常識以上のIT専門性と経験知識が要求されるだろう。

変化の中で持続的価値が担保されるには、
最新の知識やスキルを維持する変化適応能力が要求され、
新たな挑戦と学習により技術能力を不断に磨く必要があるのだ。
当社への入社は、プログラマーを超えIT専門家になる為の筈、
学習は生涯続くことを覚悟し、むしろ自然体で楽しんで欲しい。

○ 皆さんへの期待は3年後5年後のITのプロ、専門的な職業人

その為の心構えを3点、挙げておきます。

- ① 組織人として不明な点を放置せず、疑問は進んで質問する。
- ② 残る不明点は自分で集中的に学習、仕事の場で使ってみる。
- ③ 3年を目標にIT技術者の高度専門資格を複数取得する。

8. 社会人となる皆さんへ

{ 技術革新は変化を加速する、流されず変化を成長の糧に }

変革の時代は成長機会、主体的に変化と取組み成長の糧とする。

○ 会社の将来を担う新入社員に社会人として今何を期待するか

始めて社会に出る新社会人の皆さんに私の期待を述べる。

知識や考える力も大切だがまず人間的に逞しく成長して欲しい。

◇1 健全な社会人たれ。

人生は夢を追いかけるプロセス。

若者は人生に賭けるべし、自分の人生を楽しむべし。

その為に、健康である、仲間がある、自分の活躍の場がある。

◇2 強い頭と強い心の持主になれ。

長い人生の中、人間誰しも困難な状況に遭遇する。

無難な時は何も起らないが、困難を超えて人は大きく成長する。

困難な状況に陥った時、逃げず惑わず冷静に問題に立向うこと。

◇3 自分の殻を破って不断に成長せよ。

成長とは高い目標に向かって現状の自分の限界を超えること、

目標に沿って、未来から考え異質な人に学び、不断に努力する。

自我を捨てた自然体の感謝の心は、成長への潤滑油になる筈だ。

○ 職業としての IT 技術者を目指している皆さんへのアドバイス

会社生活での日常的な仕事上の心掛け、役立つヒントを挙げる。

◇1 後で遅れない様、出だしを間違えない。

知識習得の最初の出だしが大切。入門参考書を買って繰り返し読む。

◇2 具体的な中期の目標を立てる。

1年後3年後の自分の目標を立てる。資格取得の様に具体的に。

◇3 継続は力なり。

前向きな気持ちで努力を続ける。曖昧な概念が次第に定着する。

◇4 石の上にも3年。

3年我慢すれば自分が解り、仕事解り、勉強の楽しさも解る。

◇5 まず第一歩を踏出す。

考えたら踏込む。迷ったら困難な道を選ぶ。位置を確認する。

◇6 PDCA サイクルを回す。

Plan-Do-Check-Action で真因を絞込む。発想転換にもなる。

◇7 原理原則、現場現物現実。

難題に悩んだら元に戻って考え直す。選択肢広く発想転換可能。

◇8 報連相で組織力を問題解決に利用活用する。

上司への報告連絡相談。自分を越える問題で組織の力を借りる。

9. おわりに

{ 26年以降が当社の真の成長期、仕事を通じて自己実現を！ }

会社を創業して34年、社員が10名を超える頃から新卒採用を実施、入社式のスピーチメモは残っていないが、最初の新卒1人が入社した時からメモは作り、対面で入社式をしてきた。

スピーチメモは2000年頃からファイルに保存してきたが、

改めてみると、当時の状況や自分自身の想いが伝わって来る。

以下はリーマン危機後2009年入社式で使った新人に贈る言葉。

「ある町が水害ですべて流出した。隣町は何の被害もなかった。

10年後、被害を受けた町は、例外なくすべて発展している。

火事で全部燃えた町も同様である。

これも、全部発展している。

災害を受けなかった町は発展しない。

恵まれたと思ったところは、実は恵まれていない。

悲惨な状態に突き落とされた町が、十年後には数倍の発展をする。

何が原因であるか。私は心の問題であると思う。

松下も不景気に直面して発展、事故が起っては発展してきた。」

—— Panasonic (元、松下電器) の創始者 松下幸之助

30年前の入社は既に辞めた専門卒の3名でした。想いを託して、将来、一緒にロボットを作ろう、と新人歓迎のスピーチをした。今105名の新人を前に話しているが、研究者として、時代の先頭を走る人もいる。会社を創業して34年目、隔世の感を拭えません。可能性を信じ目標をもって地道に努力を続けた結果か、と思う。年内には新型コロナも終息し、ウクライナ危機も終結します。景気はいずれ回復、ITサービスが本格的に動き始める。しかし、回復後の市場は元に戻らず、旧主流は衰退し、新たな市場が生れるでしょう。これからも遭遇する筈の困難を、一つひとつ前向きに超え、「基盤整備5年計画」を終え、以降を当社発展飛躍の時としたい。最後に、皆さんの成長を期待して私の入社式の挨拶とします。健康に気をつけて、楽しい会社生活を送ってください。本日は入社おめでとうございます。

おわり